

# 豊岡市教育研修センターだより



豊岡市教育委員会 R4.3.25  
豊岡市のホームページにもアップしています

No.12

## 令和3年度 非認知能力向上事業拡大検証会議

- ◆ 今年度を含め、2019年度から3年間の非認知能力向上事業の検証会議が行われました。

**検証結果と総括** (アンケート集計結果 4点満点中の平均点 青山学院大学)

	教科教育と演劇 WS の授業中の様子		休み時間や放課後の様子	
	事前平均	事後平均	事前平均	事後平均
協働性	3.87	3.95	3.59	3.81
自制心	3.78	3.94	3.59	3.92
自己効力感	3.72	3.90	3.36	3.75

『教科教育と演劇 WS の授業中の様子に関して、事後調査での3項目の平均値が3.93という高い値になっている。また、協働性・自制心・自己効力感についてプラスの変化が確実に起こっていたことが検証されている。休み時間や放課後の様子に関して、自制心と自己効力感では、プラスの変化が確実に起こったことが検証されている。』(自己効力感=やり抜く力 青山学院大学)

- ◆ 担任の先生からは、次のようなことが語られました。

### 【三江小・高瀬ひかり先生】

失敗する体験も成功体験と同じくらい大事だと感じた。「このペアだと・・・」等決めつけないで、同じチームになったら何とかする力が子どもにはある。もっと子どもを信じるのが大事だと感じた。学級活動や国語の授業で、演劇ワークショップで経験した学びを活かす場を創った。主体的に取り組み、他者を意識し、困難も自分達で乗り越えた。失敗しても乗り越える機会を創ることが大事だと思う。

### 【資母小・小山賢哉先生】

表現することが苦手な子ども、3回目の時には自分から友達に関わり、一緒に練習し、笑顔でやり切っていた。周りの子が、うまく働きかけてくれたのだと思った。ファシリテーターは肯定的な言葉を、タイミングよくかけられていた。学級でも具体的にほめることを実際に取り組み子どもたちがだんだん変わってきた。演劇ワークショップで折り合いをつけた経験は、授業でも活きるので、どの子の意見も大事にしたい。

- ◆ お話を聞いていると、子どもの変容はもちろん、担任の先生方の子どもの見方、関わり方、介入の仕方なども、演劇ワークショップをきっかけに、変容してきたのではと感じました。『演劇ワークショップだけで子どもは変容しない。演劇ワークショップでやったこと、経験したことを先生に見てもらい、学級での学習や生活にうまく活用してもらえたらよい。』とファシリテーターのわたなべなおこさんもコメントされました。

- ◆ こうした成果を受け、令和4年度から、プロのファシリテーターが各校を訪問し、市内全ての小学校1年生で演劇ワークショップを実施します。この取組を足掛かりとして、子どもたちの非認知能力が向上していくよう、研修を重ねて、全ての学年、全ての教育活動で取り組んでいきましょう。

